Aさんの終末期ケアについて

本人の意思を尊重する支援とは

特別養護老人ホーム ぬまづホーム 丸山光世・川口優衣

倫理的配慮

- ・この発表にあたり、本人とご家族から症例紹介の 許可を得ている。
- ・掲載している写真については、全ての方から掲載の 許可を得ている。

施設の紹介 ぬまづホーム

- ・平成元年に開設
- ・特養70床を3つのグループに分け、個別ケアに 視点を置くとともに介護労働環境改善の1つとして 持ち上げない介護を取り入れている。
- ・ショートステイ、デイサービス、ホームヘルプ、 居宅介護支援事業所、地域包括支援センターを併設 している。

人には本来、穏やかに死ねる仕組みが備わっている

自然死

平穏死

食べなくなり、眠って、眠って、死んでいくこと

生き物の理想的な最後

ご利用者の紹介

97歳 女性 要介護4

病歷:認知症 難聴 腰椎圧迫骨折 心不全 多発圧迫骨折

過活動膀胱 医師からの診断:老衰

食事:偏食 好きなもの→甘いもの、ミルクティ、フライドチキン

性格:頑固

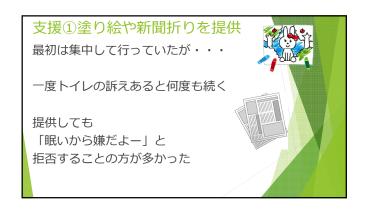
排泄: トイレ→トイレまでは自走、立位可能 トイレの訴え多いがほとんど排尿はない

具体的な取り組み(トイレ)

平 均 日中50回 夜間20回 多い日 日中80回 夜間40回

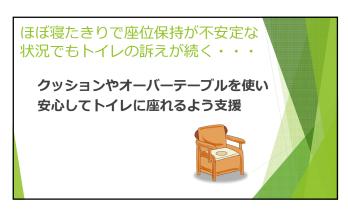
排尿ないこと多く身体的負担も大きい

気がまぎれる支援















反省

Aさんの訴えに合わせて支援を行ってきたが、トイレの回数が少なければもう少し安楽な最後を迎えられたかもしれない。

しかし、それは介護側の考えであってAさんは最後まで自分らしさを失うことなく過ごせていたとも考えられる。

課題

人生は人それぞれで一概にこうであるとは言えない。

本人と介護側の思いが合わさったものが、意思を尊重した支援といえる。

日頃からの関わり方を充実させることによって、今 後の方向性が定まっていく。 ご清聴ありがとうございました。